

我が国における小児外科手術が男性不妊に与える影響の調査研究

本邦の男性不妊患者数は89万人にも上ると推計されています。平成27年度厚生労働省調査研究事業によると、多様な男性不妊の原因のなかで閉塞性精路障害（3.9%）のうち、鼠径ヘルニア術後の患者様が少数（0.6%）ですが含まれていることがわかりました。鼠径ヘルニア根治術は小児外科の中で最も多く行われるものですが、手術と不妊の詳細な因果関係は明らかとなっておりません。また、男児鎖肛患者に性機能障害（勃起障害、射精障害）が多いことが明らかになっていますが、鼠径ヘルニア同様、鎖肛根治術と不妊の関係も詳細は不明です。

さらに近年小児がん領域では、放射線療法やアルキル化剤やシクロフォスファミドなどが不妊の原因とされ、思春期・若年成人がん患者の妊孕性温存の取り組みに注目が集まっています。

このように鼠径部や骨盤内操作を要する小児期の手術、もしくは小児がんに対する集学的治療が男性不妊へ影響を及ぼしている可能性があります。本邦における詳細な実態は明らかとなっていないため、本調査研究を企画しました。実態を明らかにしたうえで治療戦略を再考し、男性不妊患者数の減少に貢献できればと考えています。

なお、この調査は国立成育医療研究センター倫理審査委員会にて承認され、また、日本生殖医学会 SIG グループの承認も得ています。

「我が国における小児外科手術が男性不妊に与える影響の調査研究」について 調査するための手順

- 対象者は、男性不妊の精査・加療希望で来院した患者のうち、本アンケート調査に協力可能と回答ししてくださった方です。
- Forms による無記名式のアンケートを実施します。目標回答者数は500名です。
- 2025年4月1日から2025年9月30日の間に下記質問にお答えください。
- 回答に要する時間は5-10分程度です。
- アンケートでは現在の年齢、治療対象となった病名、手術や治療を受けた時期、治療の方法（手術、化学療法、放射線療法）、不妊の原因、をご記入頂きます。記載された内容は漏えいしないように施錠されたスペースに厳重に保管します。調査の結果は学術集会や論文として発表をする可能性があります。
- 調査終了後、得られたデータは施錠された場所に5年間保管し、その後、速やかに廃棄します。
- 調査への参加は自由です。ご参加いただけない場合でも、不利益が生じることは一切ございません。アンケート冒頭にある、この研究への参加意思を表明するチェック欄への記載をもって本研究へのご参加に同意頂いたものとみなします。なお、無記名式のアンケートですので、一旦アンケートにご回答頂いたあとに参加を取りやめることはできません。
- 研究計画書や方法に関する資料を閲覧することができます。
- ご不明な点等、お問い合わせは下記までご連絡ください。

千葉大学医学部附属病院 泌尿器科 坂本信一
rbatbat1@chiba-u.jp